

## 意見交換会要旨

|   |   |    | 記 録 者                 | 小 崎 貴 行       |    |
|---|---|----|-----------------------|---------------|----|
| 供 覧   | 部長  | 課長 | 補佐                    | 係長            | 課員 |
| 件 名   | 龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）に係る<br>「市民との意見交換会」 |    |                       |               |    |
| 日 時<br>場 所  | 平成 27 年 9 月 26 日（土）                       |    | 午前 10 時から午前 11 時 45 分 | 龍ヶ崎コミュニティセンター |    |
|   |   |    | 午後 1 時から午後 2 時 45 分   | 八原コミュニティセンター  |    |
|   | 平成 27 年 10 月 3 日（土）                       |    | 午後 1 時から午後 3 時        | 馴染コミュニティセンター  |    |
|   |   |    | 午後 4 時から午後 6 時        | 長山コミュニティセンター  |    |
| 参加者   | 市民：延べ 51 名                                |    |                       |               |    |
| 発言要旨  |   |    |                       |               |    |
| <p><b>【ひと（結婚・出産・子育て）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・40代を超えてから出産する方が増えているので、出産などにかかる市民アンケートについては、対象年齢を上げることも必要ではないか。</li> <li>・子育てに関して、親に相談したくない方が増えている。そのような方に対する相談支援が必要である。</li> <li>・不育治療に対する支援が必要である。まずは、情報などを積極的に出すことが必要だと思う。</li> <li>・昔と比べて暮らしが贅沢になっていて、若い世代は共働きの必要があることから、晩婚化につながっている。</li> <li>・男性の結婚年齢が上がっていることから、高年齢の世代を集めた結婚相談もあった方がよい。</li> <li>・まずは結婚に対する取り組みがあってもよい。地域にいた世話好きのように、そこに行政が踏み込めたらよくなるのではないか。</li> <li>・出生率の向上のためには、経済的な安定が一番の問題である。働き方や働く場所の問題はあるが、政策として、家庭と仕事の両立に対する支援にポイントを向けてはどうか。</li> <li>・経済的な負担が大きいから子どもを産まないという人が多くいることにどう対応するのか。また、不妊が一つの問題だと考えている。</li> <li>・人口を増やすためには、新しく産まれてくる子どもが増えなければならない。まずは、結婚することが大切であるが、結婚していないのは、経済的な負担が大きいためである。そこで、公的な結婚相談所のようなものがあるとよいのではないか。</li> <li>・「地婚地産」。地元で結婚して、地元で産む。出生率改善のためには、地元で子どもを産む人が増える流れができるとよいと思う。</li> <li>・子どもは2,3人ほしいとっていて、そう考える人は多いと思う。子どもを持つことを躊躇する理由としては、経済的な理由が一番大きいと考えている。</li> </ul> |   |    |                       |               |    |
| <p><b>【ひと（移住・定住・交流人口）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口流出を極力抑えるというところに焦点を絞るのであれば、元々地元で生まれ育った人が、首都圏に仕事を持ちながら、首都圏に住まずに戻ってくるような方策を考えてはどうか。</li> </ul>  |   |    |                       |               |    |

- ・若い人は、若い世代や子育て世代が多く住むところで生活したいというようなどころがある。そのような視点で考えなければ、若い世代は戻ってこないと思う。
- ・取手市でも人口が減っている中で龍ヶ崎を通勤圏として認めていいのだろうか。改めて考える必要がある。
- ・龍ヶ崎市は車がないと生活できないので、若い人たちが車で20～30分くらいで仕事に行ける場所がないと、定住させるには難しい。近隣に働ける場所を考えていかないとならないし、市単独では難しい。
- ・TXは盛んに宣伝して都市整備をしているが、徒歩10分以内の土地以外は残っている。それらと対比しながら、龍ヶ崎の力を訴えてはどうか。
- ・二世帯用の建売り住宅や子どもと全員で住める家がなかなか見つからない。人口を増やすのであれば、補助金などを考える必要がある。
- ・観光をポイントしているが、龍ヶ崎市出身のタレントに観光大使になってもらえばよい。女性週刊誌とタイアップして、「まいりゅうブローチ」を付けてもらうとか、「まいりゅうワンピース」を着てもらうのはどうか。
- ・関東鉄道竜ヶ崎線がバスにならないかという声がある。バスであれば、その沿線の方の駅利用頻度が上がるのではないか。バス交通を考えて、市内の道の拡充も必要である。
- ・バス路線専用ルートをつくって、朝夕は快速運転にする。竜ヶ崎駅の周辺に駐車場をつくって、朝夕は通勤通学に使う。昼間は、一般の高齢者、利用者ために停留所を小まめに停まるバスルートにすれば、全体的な魅力が増すのではないか。
- ・佐貫から市内に行く人は交通費が大変である。
- ・市内を貫通する江川に植樹をして、観光の宣伝にならないかなと考えている。
- ・空き家の問題も増えてくるし、一人暮らしが増えて非常に寂しい街になってしまう。みんなで力を合わせて、人口をどう良くするか。特に若い人たちをどうやって増やすかというところがこれからの課題になってくる。
- ・関東鉄道竜ヶ崎線は残してほしい。
- ・知名度ということであれば、これからは霞ヶ浦から南の地域で連携していった方がよい。
- ・人を呼ぶには東京圏からが一番早いので、通勤の時間を短縮することが必要である。電車の本数を増やすことは難しいと思うが、バスなどは、朝方の出勤時間だけでも増やすことや運賃の補助などが必要である。しばらくの間は、PRも兼ねて取り組む姿勢が大切である。
- ・佐貫駅周辺では、空き家が増えている。使えるような空き家であれば、市が改装などをして若い人が住める工夫をした方がよい。駅の周辺に若い人が住める家がある方がよいと思う。

#### 【しごと】

- ・佐貫駅周辺の開発を考えていることは、とてもよい。道の駅は、成功例とそうでないところがある。質の問題なので、市に任せるだけでなく、市民も気持ちをひとつにして取り組まないと後悔する。
- ・佐貫駅前に人が張り付いた中で、今さら壊して再開発をするのかといった思いがある。ハードを新たに整備したり、再開発したりすることは、都市化されていない所では費用対効果が得られないことがある。
- ・若い人を定住させるためには仕事が必要である。
- ・就職となると、働きたい場所など、思い通りにはならないと考えている。
- ・人を増やすするには、企業誘致が必要である。工業団地も手狭になってきているようである。
- ・空き家では、最近話題のIT企業の引き込みが一つの方法だと思う。
- ・龍ヶ崎市の中心産業は農業である。農業の活性化について、関心のある人を呼んで、個別にプロジェクトチームをつくってほしい。

### 【まち（まちづくり）】

- ・協働という概念を市民に認知してもらって、一緒にやろうとする以上は、どのようなことを住民にお願いして、行政がどういうサービスをやっているかを明確にする必要がある。ほとんどの行政サービスが、住民の負担になるというイメージが付いてしまう。
- ・最近アパートが非常に多い。アパートの新築規制と旧市街の古い既存のアパートのことを考える必要がある。
- ・長いビジョンで大きな計画を立ててから、高齢化に対する対策を打ち出していないといけない。世界に一つしかない魅力あるものをつくるというイメージを掲げて取組まなければならないと思っている。
- ・街の中を流れる川は、どぶ川ではいけない。水道がきちんと整備されていて、下水道が綺麗に保たれているということは、街の品位を感じる。下水道をきちんと整備してほしい。
- ・用水路は、町内会で泥をすくい上げているが、場所によってはフェンスが高い地域もあり、お年寄りには危険な所もある。泥は町内会の費用で片付けるしかない。見た目も、生活面も、住みやすい街にするためには、開渠になっているところを暗渠にしていく必要がある。
- ・雨水を流す用水路に蓋をしても流れる土砂は変わらないので、結局は埋まってしまう。今は綺麗になったところには、以前は鯉がいた。暗渠にせず鯉を放つことも一つの方法である。
- ・佐貫駅から旧市街地は距離があり過ぎるから、佐貫駅停車場線の周辺を何とかしないといけない。せめて、停車場線の左右だけでも植樹してほしい。寄附を募れば、市民も協力するのではないか。
- ・人口を増やそうと取組んできて、この結果ということは、今までの見通しが甘かったのではないか。龍ヶ崎市でも人口が減少していく中で、いかに豊かで、しっかりした街にするのが大切である。

### 【高齢者】

- ・健康寿命と実際の寿命には10歳程度の開きがあり、これらを縮めるためには、予防医療を考えなければならない。
- ・健康でいようという人を増やすためにも、いろいろなところで介護予防や健康寿命をアピールできたらよい。
- ・大都市の高齢者が増えて受け入れができないので、近隣の県が引き受けるべきだとしていることを心配している。

### 【総合戦略全般】

- ・取り組みに具体性がないので、時間軸をきちんと示してほしい。
- ・意見交換会に人が集まらないということは、危機感の共有ができていない。人口が減少して、財政的に混乱が生じると市民生活が変化することを具体的に示して考えてもらうことが必要である。
- ・具体的な施策が書かれていないので、施策ごとにプロジェクトチームをつくってほしい。市民参加をさせて具体的な施策を考え、アイデアを求めるプロジェクトチームなど、市民を参加させてほしい。
- ・あまり急激でコントロールが出来ない人口の減少は困るから、人口の減少率を抑えるためであって、これまでとは変わってきているということを市民と共に考えることが必要であり、危機感の共有につながると思う。
- ・個別の政策をまとめているところはあるが、ほとんどが既に取り組んでいる施策であるので、その成果分析を出す必要がある。自治体間競争では、どこでも同じようなことを考えているので、これまでの取り組みの効果をはっきりと見せることが問われる。

#### 【PR・広報】

- ・人を呼び込むのであれば、近隣や首都圏に対して、龍ケ崎市の行政に、どれだけの優位性があるのかを明確にする必要がある。
- ・東京近郊であるのに駅周辺に田んぼや水辺があることは、すごいと思うので、そのような街があるということを宣伝できないかと思っている。
- ・ふるさと納税プランなどを出して、龍ケ崎市の自慢の産品などをアピールしてはどうか。コロッケをもっと大きくアピールしてもよいのではないか。

#### 【その他】

- ・龍ケ崎市駅ではなく、龍ケ崎駅にした方がよい。広域行政で考えたときに、龍ケ崎市が存続するかわからない。長いスパンで考えると無駄なコストが発生する。
- ・防災無線はアナウンスする方によって、エコーで聞こえない時がある。せっかくの設備なので工夫してほしい。
- ・人材をどのように確保するかに意を用いなければ龍ケ崎市は発展しない。人材確保のプロジェクトチームを立ち上げて、人材を確保する道を開くために議論を深めてほしい。
- ・市の正規職員の絶対数自体が減っていて、非正規職員が中心になってきている。その中で人材自体を育てること自体が難しいが、外部からの人材を活用するだけでなく、市民から雇われている専門家であることを前提にしてほしい。
- ・龍ケ崎駅北や都市計画マスタープランの見直しなどもあって、一番危惧するのは、総合的なマネジメントが今の行政にできるのか。早めに市民の理解を得られるような説明がされて、それを市民が受けて意見を言える環境をつくりながら進めてほしい。
- ・駒馬小学校前の車線について、なぜ追い越し禁止車線ではないのか。他のスクールゾーンは、すべて追い越し禁止になっている。非常に交通マナーが悪い。
- ・安全な街や人は、毎日、人と人が助け合ったり、弱い人を助けたり、見守りなどだと思っている。人命救助などに関わった方をりゅうほ一で紹介するなどの善行賞を検討してはどうか。
- ・駒馬台コミュニティセンター近くでは、一時停止の取り締まりをしているが、それよりもスピードを出している車を取り締まる必要があるのではないか。